

検体保管期間のお知らせ

謹啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
2019年大型連休に向け、検体の保管可能な期間についてお知らせいたします。

謹白

記

【病理組織検査】

十分量（検体の約50倍量以上）のホルマリンに漬け、室温保管をお願い致します。

* IHC法によるコンパニオン診断、又はゲノム診断利用が想定される場合は、
10%中性緩衝ホルマリンによる固定が望ましいです。

* 冷蔵保管はしないでください。固定が進まず、細胞が変性する可能性があります。

【HPV（ヒトパピローウイルス）検査】

- ①Sure path：検査実施までに常温1週間、冷蔵4週間までとなります。お休みの際は、冷蔵でのご提出をお願い致します。
- ②Thin prep：常温での保管が可能です。そのままご提出ください。
- ③Cell prep：常温での保管が可能です。そのままご提出ください。
- ④ホームスミア：常温1週間、冷蔵で2週間までとなります。速やかにご提出ください。
- ⑤エヴァリンブラシ：室温で2週間までとなります。速やかにご提出ください。

【血液特殊染色】

骨髓(マルク)：酵素活性が劣化する為、連休前の採取・塗抹はご遠慮いただきますよう、
お願い致します。

血液(末梢血)：酵素活性が劣化する為、連休前の採取・塗抹はご遠慮いただきますよう、
お願い致します。

* 組織内酵素染色以外については、次頁の細胞診検査②乾燥固定をご参照ください。

【細胞診検査】

生検体：未固定での保管はできません。

保管可能な期間が1~2日程度と短く、未固定では冷蔵保管でも細胞変性が進み、正しい検査結果が出ない可能性があります。連休前の採取はなるべくご遠慮いただきますよう、お願い致します。採取する場合は、以下の方法で固定をお願い致します。

* 冷凍保管は細胞診検査では不可となります。

* 塗抹方法については、弊社検査案内 細胞診関連の頁をご覧ください。

- ① 湿潤固定：多めの95%エタノールに漬け、湿気や蒸発を避けて保存してください。可能であれば、冷蔵保管をお願い致します。提出する際は、通常通り、提出日にスプレー固定液を全面にかけてください。
- ② 乾燥固定：冷風乾燥後、ケースにしまい、アルミ箔で覆い、ジップロックなどの密封できる袋に入れ冷蔵保管をお願い致します。過度の乾燥を避ける為、また、冷蔵庫内との温度差による結露を防ぐ目的です。ご提出の際は、袋のままご提出いただくか、十分に室温に戻ってから袋からお出しください。
- ③ LBC容器：細胞診検査では常温保管が可能です。
* HPV検査ご依頼の場合は、1/2頁目をご確認ください。
- ④ YM容器(蓄痰)：常温で2週間となります。速やかにご提出ください。可能であれば、冷蔵保管をお願い致します。
- ⑤ 婦人科自己採取器具
ホームスメア：常温1週間、冷蔵で2週間までとなります。速やかにご提出ください。
加藤式自己採取：常温・冷蔵共に7~10日までとなります。速やかにご提出ください。

注) 常温:30℃以下。

室内でも、朝晩など温度変化が激しい場合は、温度が安定している冷蔵保管をお願い致します。
(病理組織検査は除く)

各検査方法に関する詳細は、弊社検査案内、または各検査担当者よりご案内いたします。
今後とも、よろしくお願い申し上げます。